

イベント企画・運営計画の策定

ア 全体概要

(ア) イベント概要

東京都は、ポテンシャルの高い東京ベイエリアを舞台にして、東京ベイ eSG プロジェクト（※）が目指す持続可能な都市モデルを世界へと発信するイベントを開催する。

また、本イベントは都が「SusHi Tech Tokyo」の共通コンセプトの元で展開している、スタートアップ国際イベント及び海外都市首長級会議と合わせて開催し、東京が世界共通の都市課題を克服する未来の起点として始動していく。また、持続可能な未来の実現に向けて、気候危機を乗り越えるための「テクノロジー」や世界を魅了する東京のキラークンテンツである「食」を通じて、一人一人の行動変容につなげる未来のジブンゴト化のムーブメントを推進することを目指していく。

特に、本イベントでは、集客力の高い民間等のイベントや地域のアセットと連携し、イベント開催に向けて参加者のエンゲージメントを向上させることを目的としている。

イベントは、2つの会場イベントと周辺連携イベントに分けて実施する。会場は、有明アリーナ及び日本科学未来館とし、会場間にあるシンボルプロムナード公園をにぎわいと一体感を創出するエリアとして活用する。加えて最先端技術の実装フィールドを視察会場とすることを想定している（中央防波堤、選手村跡地）。周辺連携イベントは、都が指定するイベント（スタートアップ国際イベント、海外都市首長級会議等）の他、2024年4月から6月頃に、東京ベイエリア（臨海副都心エリア）にて実施される「Tech」や「Food」をテーマにしたイベントを指すものとする。

企画にあたっては、東京ベイ eSG プロジェクト国際発信実行委員会（※）での検討を踏まえ、「サステナブルな未来」をテーマに会場イベントと東京ベイエリア周辺で実施されるイベントが連携できるよう調整し、エリア全体で一体感のあるイベントになるよう企画すること。また、会場イベントは、単なる技術展示ではなく、来場者が未来の東京の暮らしを体感できるよう工夫すること。

(※) 用語説明

- ・東京ベイ eSG プロジェクト

<https://www.tokyobayesg.metro.tokyo.lg.jp/>

- ・SusHi Tech Tokyo

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/cross-efforts/sushitechtokyo/>

- ・東京ベイ eSG プロジェクト国際発信実行委員会

<https://www.tokyobayesg.metro.tokyo.lg.jp/event/internationalevent/>

(イ) スケジュール

- ① イベント名：検討中。実行委員会で検討中のタグライン案については、指名通知時に伝達予定である。
- ② 開催期間：別紙「令和4年度 東京ベイ eSG プロジェクトに係る国際発信イベント

基本計画修正（抜粋）」（以下「基本計画」という。）を参照すること。開催規模は以下のとおり。

- ・有明アリーナ：2024年5月において、設営撤去を除いた5日間程度の開催予定である。設営及びリハーサル期間として4日間、撤去期間は2日間程度を検討。設営及び撤去期間は委託者と協議の上決定する予定である。
- ・日本科学未来館：2024年4月下旬～5月下旬のうち、未来館休館日を除いた30日間程度の予定である。設営期間として5日間、撤去期間として3日間程度を検討。設営及び撤去期間は委託者と協議の上決定する予定である。
- ・シンボルプロムナード公園：2024年5月中旬から下旬にかけて15日間程度開催する予定である。設営及び撤去期間は委託者と協議の上決定する予定である。

③ 来場想定数

イベント全体で50万人以上の来場を目指す。各会場の来場予定数は以下を想定している。

- ・有明アリーナ：10,000名/日以上を目指す。
- ・日本科学未来館：2,000名/日以上を目指す。
- ・その他連携イベント等：都が指定するイベント（スタートアップ国際イベント、海外都市首長級会議等）の他、民間企業主催イベント等で40万人以上を目指す。

(ウ) 組織体制

イベント準備及び実施時における組織体制表を作成すること。また、必要な人員を確保し、会場やプログラムごとに責任の所在がわかるよう本業務における責任者を設定にすること。

準備スケジュールイベント実施にかかる工程表を1週間単位で作成すること。進捗管理に活用する他、工程表は、仕様書の「8 打合せ等」において、委託者と受託者との打合せの際、進捗報告に使用すること。工程に変更が生じた際には委託者に協議すること。工程の遅れについては、課題抽出及び対応策を提案の上、委託者の了承を得ること。

(エ) 準備スケジュール

(イ) を参照

イ 全体運営計画

(ア) 全体運営

① 会場運営

会場管理者及び関係機関等と綿密に調整し、会場の使用に係る条件及び注意事項等を遵守した上で、安全対策に万全を期すことを前提に運営計画（設営・装飾・撤去など）を策定すること

なお、運営計画等に記載された会場設備、備品及び装飾品等は受託者が手配することを前提とした計画にすること。

- ② 出演者等に対する事前調整
イベントの出演者・登壇者・その他関係者に対する、飲食物提供・誘導・出演に要する経費等について企画・調整・手続きを行うこと。
- ③ デジタルを活用したイベント
現地だけではなくオンライン配信など遠隔地からも参加できるような計画とすること。多言語対応を基本とし、日本語・英語以外の言語については別途委託者と調整したのち決定すること。
- ④ ダイバーシティ&インクルージョン
イベントの出演者や運営体制の人員において、人種、性別、年代、障がいの有無などの多様性に配慮すること。また、多様な来場者を想定し、アクセシビリティに配慮した広報・運営計画を策定すること。

(イ) 緊急時対応計画

荒天時や大規模自然災害発生時、イベントにかかる事故発生時など、当初計画通りのイベント運営が困難となった場合の対応要領を委託者と協議して、策定すること。また、感染症対策について、国や関係団体からの通知及びガイドラインなどを参考に感染症対策の実施レベルに応じ、イベント開催時期の状況に合った計画を作成すること。

(ウ) 事業効果測定計画

計画の作成に当たっては、本事業の効果を最大化するための KPI を設定し、それに向けての活動内容及び運営方法を提案すること。提案に当たっては、来場数などの定量項目だけではなく、イベントの実施に伴う経済波及効果を算出するとともに、アンケートを実施し、事業の満足度および、サステナブルな未来をジブンゴトとして考える観点から事業効果を測定するものとする。本事業の効果を測定可能な定性的および定量的な指標・実施方法等については、イベント公式アプリの活用も検討し、委託者と協議の上、決定すること。

(エ) 警備計画

会場ごとに適切な警備計画を作成すること。スタートアップ国際イベント及び海外都市首長級会議との同時期開催を踏まえ、求められるセキュリティレベルの高い海外要人や公人等の来訪を前提とした計画内容、人員体制とすること。

ウ イベント企画・会場運営計画

(ア) 有明アリーナ会場

- ① 使用期間等
委託者と協議の上、設営撤去等を除き5日間程度イベントを企画すること。詳細は上記「ア全体概要（イ）スケジュール」を参照
- ② 会場費
施設の規程に基づき予約・支払い手続きを行うこと。使用料については委託費に含めること（指名通知後に伝達予定である）。

③ ターゲット

別紙「基本計画」のとおり。

④ 構成

別紙「基本計画」を基に、東京ベイ eSG プロジェクトが目指す持続可能な都市像を世界へと発信するエキシビションを企画すること。単なる技術の展示ではなく、未来の東京のビジョンを提示し、没入感のある映像や体験型企画とすること。

また、サステナブルな都市モデルを東京から発信するため、「食」を切り口に未来の“おいしい”食の体験を企画すること。来場できない人向けのデジタルプラットフォームを提案するとともに、多言語にも対応できるように企画すること。なお、日本科学未来館会場と連携したコンテンツの検討やアリーナ会場終了後のコンテンツ転用を検討すること。

⑤ 使用エリア

メインアリーナ、サブアリーナ、ホワイエ、エントランス及び屋外（有明親水海浜公園を含む）等を想定した計画を策定すること。

⑥ レイアウト等

別紙「基本計画」を基に、イベント全体の世界観に準拠しつつ、多様な来場者を想定し、先端技術や行政ビジョンのみならず、それらに対する市民の関心、ジブンゴト化、体験、参画を促す企画、コンテンツ、展示等を配した会場のゾーニング、装飾、利用計画を策定すること。また、空間設計や装飾デザインにおいては、他の施設・イベントとは一線を画すユニークさと先進性を担保しつつ、市民の共感を重視した高揚感やSNSを通じた拡散を図れることを重視すること。「2050年の東京」が表現された空間や演出を提案し、レイアウトのパース図を委託者が別途指定する日までに作成すること。会場図は別添のとおり。

⑦ コンテンツ企画 ※以下及び下記（エ）～（ク）を踏まえた企画を行うこと。

別紙「基本計画」を基に、没入感のある映像や未来の生活を体験できる展示などにより、eSG プロジェクトが発信するサステナブルな未来の都市モデルを様々な来場者層に訴求するコンテンツを企画・提案すること。

また、持続可能な未来を創り出すために、国内外の最先端技術を活用した体験型展示企画を通じて、現在の課題や解決策などを楽しく、おいしく知るとともに、一人ひとりの気づきや行動変容につながる内容のコンテンツを企画・提案すること。コンテンツの企画にあたっては、会場の利用規則を守り、施設管理者と協議・協力し承諾を得ること。その他、以下のコンテンツを含めること。

- ・イントロダクション
- ・ステージ企画（オープニング及びクロージングセレモニー、基調講演、セッションプログラム）
- ・参加型プログラム

- ・ラウンジスペース（サブアリーナを想定）
- ・新しい食の体験 等

⑧ その他

有明アリーナにおける運営計画の策定にあたっては、会場の施工及びイベント運営について、策定段階から施設管理者、関係行政機関及び周辺地域の関係者と十分な調整を行うこと。なお、会場内の運営役務および警備については施設管理者と協議し、最適な手配を行うこととし、施設管理者側の条件等があればその指定や推奨に従うこと。会場内外の来場者の導線設定に当たっては、待機列などによる滞留が生じないように、入場や展示等の方法を工夫すること。

(イ) 日本科学未来館

① 使用期間等

委託者と協議の上、設営撤去等を除き30日間程度イベントを企画すること。詳細は上記「ア全体概要（イ）スケジュール」を参照

② 会場費

本契約には含まないものとする。

③ ターゲット

別紙「基本計画」のとおり。※主に未来を担っていく子どもたち

④ 構成

別紙「基本計画」を基に、有明アリーナ会場で示すサステナブルな未来を展開しつつ、子どもや地元住民を含む一般市民が気軽に参加でき、サステナブルな取組に興味を持つ体験型のイベントとすること。コンテンツは健常者が楽しめるもののほか、アクセシビリティに障がいのある方や高齢者でも体験できるコンテンツも実施し、幅広い層が楽しめる内容とすること。有明アリーナ会場、隣接するシンボルプロムナード公園と連携したコンテンツを検討すること。有明アリーナ会場が終了後、コンテンツの転用ができるよう検討すること。詳細は⑦「コンテンツ企画」を参照。

⑤ 使用会場

1階：シンボルゾーン、企画展示ゾーン a・b、コミュニケーションロビー、多目的ルーム a・b、屋外等を想定

7階：未来館ホール、イノベーションホール、その他各種コンファレンスルーム、控室 展望ラウンジ等を想定

※会場の使用にあたっては、会場運営計画策定の後、施設管理者への申請、協議、調整の上、決定することとする。

⑥ レイアウト等

別紙「基本計画」を基に、イベント全体の世界観に準拠しつつ、多様な来場者を想定し、先端技術や行政ビジョンのみならず、それらに対する市民の関心、ジブンゴト化、

体験、参画を促す企画、コンテンツ、展示等を配した会場のゾーニング、装飾、利用計画を策定すること。また、空間設計や装飾デザインにおいては、他の施設・イベントとは一線を画すユニークさと先進性を担保しつつ、市民の共感を重視した高揚感やSNSを通じた拡散を図れることを重視すること。「2050年の東京」が表現された空間や演出を提案するとともに、レイアウトのパース図を委託者が別途指定する日までに作成すること。会場平面図は別添のとおり。

⑦ コンテンツ企画

別紙「基本計画」を基に、有明アリーナ会場で展開されるエキシビションとの連携を踏まえ、「2050年の東京」の世界観を深掘りし、一般市民の関心、関与を促す必要性の高い「サステナブル」、「Well-Being」、「子どもたちの活躍」を盛り込んだコンテンツを企画・提案すること。その際、市民のジブンゴト化を促すために、体験性・参加感を重視し、パネル展示などの静的コンテンツよりも、未来（先端技術）に触れられること、デジタルを活用した新しい体験、実証実験などへの参加（未来づくりへの参画）、ワークショップなどの対話・共創プログラムなど、インタラクティブな体験やコンテンツの企画を行うこと。子ども向けのコンテンツに関しては、一般来場のほか、都内の学校・教育機関と連携した取組を企画すること。また、話題性・広報発信の最大化のために、シンボル・目玉となるコンテンツを明示すること。コンテンツの企画にあたっては、会場の利用規則を守り、施設管理者と協議・協力し承諾を得ること。その他、以下のコンテンツを含めること。

- ・キックオフイベント
- ・クロージングイベント
- ・隣接するシンボルプロムナード公園との連携
- ・有明アリーナ会場コンテンツの転用（有明アリーナ会場終了後）

⑧ その他

日本科学未来館における運営計画の策定にあたっては、会場の施工及びイベント運営について、策定段階から施設管理者、関係行政機関及び周辺地域の関係者と十分な調整を行うこと。なお、会場内の運営役務および警備については施設管理者と協議し、最適な手配を行うこととし、施設管理者側の条件等があればその指定や推奨に従うこと。会場内外の来場者の導線設定に当たっては、待機列などによる滞留が生じないように、入場や展示等の方法を工夫すること。

(ウ) シンボルプロムナード公園

① 使用期間

委託者と協議の上、設営撤去等を除き15日間程度イベントを企画すること。詳細は上記「ア全体概要（イ）スケジュール」を参照すること。

② 使用会場

全域（下記参照）

https://www.tptc.co.jp/park/01_04#parkareamap

使用料は本契約に含まないものとする。

③ シティドレッシングの実施

下記「オ 広報・誘客企画・計画」で実施するシティドレッシングの一環として、実施内容を企画すること。

④ コンテンツ

別紙「基本計画」を基に、イベントの集客及び周遊促進につながるコンテンツを企画すること。賑わい創出に資する、Food やエンターテイメント、テクノロジー、モビリティ等を活用した屋外コンテンツ及び装飾を検討すること。隣接する日本科学未来館と連携したコンテンツを検討すること。企画に際しては、費用対効果を最大化させるように検討し、コンテンツの展開期間や具体的なコンテンツ案を提示のうえ、レイアウト案のパス図を委託者が別途指定する日までに作成すること。また、来場者の休憩スペースの設置、仮設トイレの設置についても検討すること。

⑤ レイアウト等

別紙「基本計画」を基に、賑わい創出に資する、フードやエンターテイメント、テクノロジーを活用した空間・演出を企画提案すること。また、広大なスペースの周遊性を向上するため、マイクロモビリティなど移動手段を充実させる内容を企画すること。

さらに、受託後3週間以内に企画案の初稿を提出するとともにレイアウトのパス図を委託者が別途指定する日までに作成すること。

⑥ その他

シンボルプロムナード公園における運営計画の策定にあたっては、会場の施工及びイベント運営について、策定段階から施設管理者、関係行政機関及び周辺地域の関係者と十分な調整を行うこと。なお、会場内の運営役務および警備については施設管理者と協議し、最適な手配を行うこととし、施設管理者側の条件等があればその指定や推奨に従うこと。会場内外の来場者の導線設定に当たっては、待機列などによる滞留が生じないように、工夫すること。

(エ) オープニング及びクロージングセレモニー

① 有明アリーナ会場

別紙「基本計画」を基に、来場者の盛り上げに寄与し、メディアにとってニュースバリューが高いオープニングセレモニー及びクロージングセレモニーを企画すること。全体のプログラムや演出（音響・照明含む）の企画に加えて、司会者や同時通訳者等の手配及びシナリオの作成を行うこと。なお、司会者については受託後委託者と協議の上、決定すること。

また、出演者については受託後委託者と協議の上、決定すること。出演者の日程調整・事前打合せ及び必要に応じて交通手段や宿泊施設の確保するための手続き・支払い等を本契約において行うことを前提とすること。

クロージングセレモニーの企画においては、次回の SusHi Tech Tokyo 関連イベントの案内を含めること。

② 日本科学未来館

別紙「基本計画」を基に、キックオフイベントを企画し、有明アリーナ会場での開催に向けて機運醸成につながる内容とすること。クロージングセレモニーでは隣接するシンボルプロムナード公園も活用すること。次回の SusHi Tech Tokyo 関連イベントの案内を含めること。

(オ) ステージプログラム

別紙「基本計画」を基に、サステナブルな社会の実現に向けたムーブメントを牽引し、次世代へ夢のある未来をつなぐことをテーマに、基調講演、ビジネス向け講演、一般向け講演を企画すること。全体のプログラムや演出（音響・照明含む）の企画に加えて、司会者や同時通訳者等の手配及びシナリオの作成を行うこと。

登壇者については受託後、委託者と協議の上、決定すること。登壇者との日程調整・事前打合せ及び必要に応じて交通手段や宿泊施設の確保するための手続きや支払いを本契約において行うことを前提とすること。なお、本契約の契約期間中に変更やキャンセルが生じた際は、交通事業者や宿泊施設のキャンセルポリシーにしたがって受託者の責任において必要な手続き・支払いを行うこと。

基調講演では、知事、ビジネスリーダー、北欧など環境先進国要人などを想定すること。ビジネス向け講演では、国内外のビジネスパーソン、研究機関等を想定し、オープンディスカッションを基本とすること。

基調講演及びビジネス向け講演は、英語を基本とすること。また、同時通訳等ができるデジタルツールの活用を検討すること。対応する言語は少なくとも2ヵ国語以上とすること。登壇者の選定には、実行委員会委員による推薦枠を設けること。

一般向け講演では、ワークショップや著名タレントの起用なども考慮し、サステナブルな取組についてわかりやすさや盛り上がりを重視したプログラムにすること。

(カ) 「食」の体験（飲食物を提供する全ての会場）

別紙「基本計画」を基に、サーキュラーエコノミーやアップサイクル、代替食などをテーマにサステナブルな食を提供すること。飲食物の提供にあたっては可能な限りフードロスを減らすよう検討すること。

(キ) 子どもの参画イベント

ワークショップの活用やサステナブルな取組を行っている子どもの登壇など、Z世代・α世代をターゲットとしたコンテンツを企画すること。

(ク) デジタルを活用したイベント

デジタルを活用し、障がいのある方や高齢者、来場できない人にもイベントを楽しんでもらえるコンテンツを企画すること。

エ 周辺イベント連携企画・計画

(ア) SusHi Tech Tokyo 関連イベント連携

別紙「基本計画」を基に、以下のイベントについて、広報、シティドレッシング、輸送について連携できるよう検討すること。

- ・スタートアップ国際イベント 2024年5月中旬頃、場所未定

<https://city-tech.tokyo/>

- ・海外都市首長級会議 2024年5月中旬頃、場所未定

<https://www.g-nets.metro.tokyo.lg.jp/>

- ・その他 委託者が指定するイベント

(イ) 民間企業関連イベント連携

別紙「基本計画」を基に、以下のイベントや商業施設とサステナブルをテーマに連携できるよう検討すること。

- ・シンボルプロムナード公園周辺で同時期（2024年4月～5月頃）に実施される集客イベント

- ・東京ベイエリア商業施設

- ・その他 委託者が指定するイベント

(ウ) 周遊促進

- ・総合案内アプリケーション等の企画

別紙「基本計画」を基に、イベントスケジュールの他、会場及び屋外マップ、入場及び輸送バス、ポイント付与、スタンプラリー等東京ベイエリアへの来場促進とエリア内での周遊促進が図れるようなアプリケーションを企画すること。

- ・委託者が別途指定するイベント（スタートアップ国際イベント、海外都市首長級会議等）を包含したワンストップアプリを企画すること

- ・上記アプリケーションに、以下の機能を搭載するよう検討すること。

チケットや物販のキャッシュレス機能、コミュニケーション機能（通訳、参加者同士の交流（ビジネスマッチング）等）、会場内の位置情報、会場内外混雑情報の可視化、会場間のルート検索機能等。

(エ) 輸送計画

別紙「基本計画」を基に、会場間や周辺連携エリアとの距離や動線等も踏まえ、イベント周辺エリアのアクセス向上を促す仕組みを検討するとともに、想定来場者数に基づき、イベント会場内や会場周辺での混雑状況を想定のうえ、適切な輸送計画を策定すること。輸送には、サステナビリティとアクセシビリティに配慮の上、燃料電池バス・水素燃料船や、バイオ燃料の使用、次世代小型モビリティ等幅広く検討するこ

と（協賛企業からの調達を含む提案内容とすること）。また、モビリティの運行にあたっては、道路使用許可、発着会場の敷地調整、装飾等を行うことを前提とすること。

サービス提供期間は2024年4月末～5月末を想定しており、関連イベントの開催スケジュールを勘案した日毎の運行計画を策定すること。

オ 広報・誘客企画・計画

(ア) 広報計画

別紙「基本計画」を基に、事業効果を最大化させる具体的な広報・プロモーション活動を、イベント実施前・イベント開催期間・イベント実施後の3つのフェーズに分けて提案すること。イベント実施前の計画においては、広報やコンテンツ制作に資する目的で、プレイベントや都民の参加型ワークショップ、実証テスト、コンテンツの制作やプロトタイピングを企画・提案すること。

本イベント以外の目的で東京を訪れる国内外からの旅行者が、このイベントに足を運ぶような仕掛けを検討すること。国内外からの来場者向けに案内サインやインフォメーション等の多言語対応を検討すること。メディアや問い合わせ対応のため、広報事務局を設置するよう計画すること。また、主に海外メディアの利用を想定した発信の拠点となる場所について計画すること。

今後のPR展開のスケジュールを踏まえ、初稿を受託後1週間以内に提出すること。今後実施する広報活動に資するための企画を策定するとともに、これを実施するための詳細な計画、製作物の規格や数量を具体的に提案すること。

(イ) シティドレッシング

別紙「基本計画」を基に、イベント会場周辺の来場者や関係者が利用する陸路、海路、空路を統一的なデザインのフラッグやバナー等で効果的に装飾することで、イベントの認知と開催気運の醸成を図るとともに、開催都市としてのプレゼンスを国内外に印象付けるよう企画すること。

東京ベイエリア全体がイベント対象地域となるため、イベントの機運醸成や統一感ができるように検討すること。イベントの共通コンセプトである「SusHi Tech Tokyo」に沿って、シティドレッシングの取り組み自体にも可能な限り「サステナブル」や「先進デジタル技術」の要素を付加していくことを検討すること。

上記の趣旨及び目的を十分に踏まえ、委託者と協議の上、東京都が別途実施している既存のシティドレッシングと連携、調整を図りながら、下記(1)から(10)までの業務を企画すること。

項目 業務内容

- (1) 業務実施体制の整備等業務
- (2) 統一的なデザインの提案

- (3) 実施箇所（装飾対象道路）の現地調査と設置街路灯等の特定
- (4) 装飾物の製作
- (5) 取付具の製作
- (6) 強度計算（構造計算）
- (7) 関係機関との協議・申請手続等
- (8) 関係機関との連携・調整
- (9) 装飾物の設置、保守点検（維持管理）、撤去及び廃棄（リサイクル）等
- (10) 廃棄物処理

① 実施期間

2024年4月～5月末を想定。詳細は委託者と協議の上決定すること。

② 実施箇所（想定であり、関係機関との調整は本業務に含む）

<空港>

- ・羽田空港：第一／第二／国際線ターミナル→各到着ロビー等を装飾

<陸路>

- ・幹線道路：「有明通り」「環状二号線」「都道484号」「都道482号」等
→街路灯フラッグ／道路沿いの柵へバナー掲出／橋脚シート貼り
- ・ゆりかもめ：「有明テニスの森駅」「市場前駅」「新豊洲駅」「豊洲駅」「有明駅」
「台場駅」「東京国際クルーズターミナル駅」「テレコムセンター駅」
「青海駅」「東京ビッグサイト駅」
- ・りんかい線「国際展示場駅」「東京テレポート駅」
- ・都営バス ・ 空港リムジンバス→駅構内外、バス車体を装飾
- ・ラストマイル（最寄駅から会場までの徒歩ルート）
- ・各会場への導線
→街路灯フラッグ／道路沿いの柵へバナー掲出／橋脚シート貼り／配電用地上機器ラッピング／トラスタワー設置等

<海路> 水上バス・船着場・海上

- ・有明アリーナ船着場→水上バスや船着場を装飾

<シンボルプロムナード公園>

- ・全域（下記参照）

https://www.tptc.co.jp/park/01_04#parkareamap

(ウ) 制作物計画

別紙「基本計画」を基に来場者、登壇者へのノベルティ、スタッフ着用アイテムなどの制作物の企画、制作・発送スケジュールを作成すること。各種制作物はサステナブルをテーマに来場者の満足度が高まるものを柔軟に検討すること。

(エ) 協賛計画

別紙「基本計画」を基に、イベントの目的に合った企業等から技術や協賛

金などの提供を受けることができるよう検討すること。